

## 充実した演習・フィールドワーク学習にむけて

社会科専修・川瀬久美子

### 1. 授業の概観

本授業の目的は ①個性を生かした持続可能な地域社会のあり方を考え、住民参加の意義について理解する。②地域社会において今なにが求められているのか、知見を得る。の2点であり、授業の到達目標は以下の3点である。

①各地のまちづくりの事例から、望ましい地域社会のあり方とその実現方法を考える手がかりを得る。②フィールドワークの基本ルール（予備調査、聞き取り・観察のマナー、報告方法）を身につける。③他者（受講生間、教員、文献、地域住民）の意見に耳を傾け、自らの意見を表明し、議論する能力を育てる。

ディプロマ・ポリシーとしては、①自分の生き方を社会のあり方と結びつけてデザイン（考案・計画）することができる。（思考・判断）②地域・福祉・平和をめぐる現代社会における諸問題に関心を持ち、これらの問題に取り組むための理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。（関心・意欲）③共生社会のあり方を主体的に考えて、諸機関や人材をコーディネートする対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。（態度）の3項目と関連している。

23年度後期授業は、人間社会デザインコースの川瀬久美子・川岡勉・張貴民の3教員がほぼ毎回出席し、受講生は23名であった。

授業では、まず、日本の地域が抱える課題を理解するため、大江正章（2008）「地域の力ー食・農・まちづくり」（岩波新書）を全員で講読した。この文献は3回生の中には2年前に既読の者もあったが、その後の学びを通してより深い文献の読み込みや議論ができることを期待した。人間社会デザインコースのコミュニケーションサイトには、地域・福祉・平和の各テーマのWebフォーラムが用意されている。受講生は、割り当て部分（1章）を読んでの①質問や感想 ②皆と議論したいテーマの両方を火曜日までにフォーラムに記入する。報告担当者は質問への回答を用意し、ディスカッションテーマを決定して討論を充実させるための資料の準備も行う。授業当日は報告者が司会・進行を担当し、ディスカッションの内容を整理し、まとめとしてコミュニケーションサイトに書き込みする。

文献講読と平行して、今期は愛媛県大洲市長浜

町を対象としたフィールドワークを行った。事前に長浜町の概要を学ぶ調べ学習をおこない、住民が現在どのような課題を抱えてまちづくりに取り組んでいるのか、現地に赴き聞き取り調査を行った。

以上の活動の成果は、人間社会デザインコースの福祉デザインフォーラム、平和デザインフォーラムとともに報告会を開催し、発表した。

### 2. アンケート結果

後期日程を終了した2月17日の授業終了後、受講生に授業についての評価アンケートを行った。授業に出席していた1回生7名、2回生7名、3回生4名の計18名から回答を得た。

#### 1) 授業で獲得できた能力・知識・態度

「授業で良かった点や得ることができた知識・能力について」という問いに対して、以下のような記入があった。

<3回生>

- ・文献をもう1回読んで、一層深く理解できた。
- ・地域にどのように関わっていくかを考えることができた。
- ・意見共有できたこと
- ・地域資源の発見
- ・ディスカッション・コミュニケーション力

<2回生>

- ・特になし
- ・まちづくり・地域づくりを行うにあたっての様々なアプローチの仕方を学ぶことができた。
- ・福祉・平和デザインフォーラムとの繋がりや地域の良さなどを見つけることができた（2名）。
- ・地域づくり、まちづくりについて考えが深まった。
- ・地域について様々な視点から考えることができた。
- ・地域を観察する力がついた。

<1回生>

- ・ディベート、問題発見力、地域の現状
- ・いろいろな地域の活動・現状を知ることができた（2名）。
- ・地域に根付いた特色や良さなどに気づくことができるようになった。
- ・地域の力（行動する力）
- ・文献を読む能力、地域についての各方面をなら

った。ディスカッション。

- ・地域における活性化のやる気。私達若者が何かしなければ！と強く思うようになった。

## 2) 授業の改善すべき点や改善案

### (1)文献講読

- ・新しい文献がよかった(2名)。
- ・テキストをもっと身近なものに。
- ・もう少し書き込みの期限を延ばしても良い(2名)。
- ・サイトの書き込み方式はパソコンがない人が困る。
- ・サイトへのアクセスがめんどろだった。
- ・サイトへの書き込みは忘れがちなので、プリントを配布して期日までにBOXに提出する方法も良いかと思う。
- ・サイトのトピック立てが遅いことがあった。
- ・サイトへの事前書き込みで名前を明記するとディスカッションがスムーズになる。
- ・発表者がレジメを作って全員で文献解釈を統一してもいい。
- ・サイト書き込み方式はあまり必要性を感じなかった。それよりも報告者がレジメを作って授業に臨むことのほうが大切だと思う。
- ・もっとしっかりと文献を皆が熟読する必要があると思う。

### (2)ディスカッション

- ・テーマの提示に工夫があれば良かった。
- ・何か一つ大きなテーマは先生が提示して欲しい。
- ・内容が自分たちにひきつけて考えることができていなかった。もう少し身近な問題に置き換えて考えることができればよかった。
- ・文献の解釈が統一できれば、もっと深いところまで議論できたかもしれない。
- ・円滑に進めるためには、全員が文献をもって読み込む必要がある。
- ・板書の有効活用。
- ・人数が多すぎる。
- ・もう少し発言の機会がある。
- ・小グループで話し合ってから全体で意見を共有するという形で発表しやすい環境だった。
- ・着席をコの字型にしないと意見が言いにくい。
- ・あまり発言しやすい環境とは感じられなかった。
- ・意見を言っても批判的な意見を言いかえされると意見しにくくなる。
- ・違う意見があったら、はっきり行ったほうがいいと思う。
- ・個人の意見が言い合えるように、意見交換の場を大切にしたい。

- ・(最終回のまとめの)ディベートの回が一番楽しかった。

### (3)フィールドワーク

- ・フィールドワークの目的を1回目にはっきりさせて共通認識をつくる。
- ・自分たちで地域の選定を試みたかった(2名)。
- ・もう少し自分たちで決めたかった。
- ・地域をもっと身近なところに行きたい。
- ・もっと地域の選択があったらと思う。
- ・本に載っている地域に行ってみる。
- ・事前準備をもう少しやった方がよかった。
- ・もっとフィールドワークに時間が欲しかった。
- ・当日の行動がバラバラで何もしていない時間があつた。
- ・もっと学生で考える機会がある。
- ・田舎だけでなく都会の問題についても学んでみたい。
- ・文献とフィールドワークの繋がりがなかなか見いだせなかった(2名)。
- ・まとめる時間がもう少しほしい(3名)。

### (4)メンバーの役割分担や交流

- ・連絡先の共有の徹底。
- ・他コースの人もいたので、まず自己紹介をしたほうがよい。
- ・一年生はもっと発言すべき。
- ・1回生はもっと役割を担当したいと思う。
- ・上回生に依存してしまう空気をどうにかした法が良い。
- ・1回生のみグループや地域フォーラムに所属したことのないグループもあつたので、もっと配慮できればよかった。
- ・異学年の交流を積極的にすべき(2名)。
- ・個人的にあまり交流したり積極的に関われなかった。
- ・全員で共有すべきこと(フィールドワークの目的など)をもっと共有していけたら、同じ考えというベクトルで動けたかもしれない。

## 3. 総括

「授業で獲得できた能力・知識・態度」に対する回答から、授業の目的・到達目標・DPについては、ほぼ到達出来ていたと考えられる。しかし、①文献講読の方法(Webサイト使用の是非等)②ディスカッション・異学年交流の促進③学生自身によるフィールドワーク企画・実施については、学生の意見を取り入れて次年度に改善したい。